

第1回教育課程編成委員会 議事録

【日時】平成26年8月30日(土) 14:00~15:40

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 会議室

【委員】出席：大木田治夫、志岐浩二、松尾峯子、平田篤司、清川慎介、池上功
石原義大、中嶋孝行、沖永さとみ、越本千加、池田聡美
廣瀬典治、山口三津城、濱中博之、藤村幸一、野口大樹、松本真一郎
田島百合子(代理：松尾和香)、舘川大輔、菊地貴子、久保義哲、清木毅
欠席：有村俊男、宗高志、諸岡辰巳、松川征平

(敬称略)

1. 開会の辞(司会 藤村幸一)
本会の開会目的の説明を行う。
2. 委員の紹介(司会 藤村幸一)
各委員の紹介および配布資料の説明を行う。
3. 学校長挨拶(校長 廣瀬典治)
改めて本会の開会目的および職業実践専門課程について説明を行う。
4. 理学療法科 教育計画(教育部長兼学科長 松本真一郎)
4年課程1学年定員40名、昼間部で授業を行っている。1、2年生と3、4年生ではカリキュラムが異なる。1年生は基礎学力の向上、2、3年生は専門科目と臨床実習、4年生は臨床実習と国家試験対策、就職に力を入れるカリキュラムとなっている。本学科では200単位以上という大学以上の単位を取得できる。
国家試験の合格率は92.9%。昨年度も90%超と軌道に乗ってきている。
就職は100%。ほとんどが県内で県外は3名。福岡1名、佐賀1名、沖縄1名。9割が病院やクリニック、残りの1割が老人保健施設等となっている。

(質疑応答)

- Q.(大木田) これからは疾病ではなく、予防的な関わり方が重要になってくるがその点についてカリキュラムに工夫はあるか。
- A.(松本) 現在のところはない。地域リハビリテーション学や生活環境論で介護予防についてはある。今後盛り込む検討をしたい。
- Q.(大木田) 今後、地域包括ケアで理学療法士の関わりが重要になってくるので、

教育してもらいたい。

A. (松本) 前向きに検討したい。

Q. (志岐) 新入職員が診療報酬として、患者に対してどのように算定されているかや、介護保険との違いを分かっていない。入社してからの教育に時間がかかるので、保険制度について、もっと学校でやってもらえるとありがたい。

A. (松本) 1年生で診療報酬については、学んでいるのだが、イメージがつかみにくく、学年が上がるに連れて記憶が薄れていく。3、4年次で繰り返すことにより、意識づけをできるよう工夫したい。

5. 介護福祉科 教育計画 (介護福祉科主任 松尾和香)

2年課程1学年定員40名、昼間部で授業を行っている。規定では450時間以上の施設実習を含む、1,800時間以上(平成26年度生から医療的ケアでさらに50時間)が必要とされているが、本校では2,204時間行っている。学科として必要と考える部分を増やしているため、規定より多くなっている。卒業と同時に登録申請をして取得できるため、資格取得率は100%である。最近、国家試験が始まるのではないかと噂されていたが、延期になりそうだ。カリキュラムは国家試験が始まる前提で組んでいるので、2年生に補講を入れる予定で空き時間が多くなっている。今後は状況を見ながらカリキュラムを変更したい。実習は3段階に分かれていて段階ごとにレベルが上がり、3段階では課題について援助計画を立て、実施、評価をする。国家試験はないが、2月に共通試験がある。120点満点で80点を合格とし、卒業判定の基準としている。

就職は、長崎県内が中心。県外は兵庫県と神奈川県。就職先は、特養17名、有料老人ホーム・デイサービス等が8名、介護保健施設が4名など。例年100%を達成している。

(質疑応答)

Q. (松尾峯) こころ医療福祉専門学校の卒業生を担当にして、実習の受け入れを行っている。人に合わせて評価を行っているが、評価の仕方、アセスメントの取り方がよいのかと悩みながらやっている。

A. (松尾和) 学生の経験などによって視点が変わってくる。指導においては対応を変えてもらっているかと思うが、巡回のときに話をしているので、そのときに打合せをしながら、評価は施設の方で決めていただいてもよい。学校としては実習中のほかの要素も勘案して評価している。

6. 柔道整復科 教育計画 (柔道整復科学科長代行 舘川大輔)

3年課程定員30名、昼間部と夜間部で授業を行っている。国家試験を受験する。規定上は、校外実習は必要ではないが、昼間部は総合演習の中で校外実習に近いものを行っている。国家試験100%実現のスローガンのもと、医療福祉の分野で活躍できる、あいさつ・こころ配りができる学生を育成することを目標としている。他学科同様、担任制により円滑なクラス運営を行っていて、成績不良者には補講も行っている。

1年次は、基礎、専門基礎、概論、2年次は、専門基礎、各論、3年次は、実技と筆記の国家試験対策に力を入れている。

国家試験合格率は、23年度85.3%、24年度100%、25年度95.5%となっている。就職率は過去3年100%で整骨院が9割、その他1割となっている。長崎県内が75%、県外が25%でほとんどが福岡に就職している。

(質疑応答)

Q. (平田) 充実したカリキュラムだと感心している。固定療法の基礎を専門学校で十分に学んでいると現場で感じる。包帯もよく学んでいる。また、話し方や話しかけ方もよく学んでいる印象がある。柔道整復師会としては、柔道大会などの救護活動の中で固定を一番大事にしている。固定しながらでも競技ができるような環境がニーズとしてあるので、実技ではテーピングを中心に指導をしていただければと思っている。

A. (舘川) 総合演習の中でテーピングの実技をやっているが、昼間部しかない。したがって、昼間部と夜間部で実技に差があるのが現状。昼間部、夜間部で学習に差が少なくなるようなカリキュラムになるように検討していきたい。

7. 健康鍼灸科 教育計画 (健康鍼灸科学科長 菊地貴子)

柔道整復科と同じく3年課程定員30名、昼間部と夜間部で授業を行っている。国家試験を受験する。昼間部は総合演習の中で徒手実技などの校外実習を行っている。学生は、昼間部が新卒の割合が多く、夜間部は社会人の割合が高い。女性がやや多い。当然だが、国家試験合格率100%、就職率100%を目標にしている。挨拶を基本にして笑顔で接することができる、誠実にコミュニケーションが取れるなど、技術だけではなく、医療人としての倫理観を身に着けることができるような教育を行っている。また、現代鍼灸と中医学、古典鍼灸を網羅して教育を行っている。

国家試験に合格しないのは、教員が役目を果たせていないと思っているが、新卒の多い昼間部のモチベーションを上げるのに苦勞するときがある。厳しい進級基準を設けており、時には担任が親と面談して成績の話をすることもある。

就職は就職課担当と担任のダブルシステムで行っており、100%となっている。鍼灸整骨院が6~7割で、ほかには教員養成課程や他学科への進学などがある。34名中

県外は8名で県内希望者が多い。県外は福岡希望者が多い。

国家試験合格率は、24年度はり師96%、きゅう師96%、25年度はり師100%、きゅう師97%。4期の卒業生を出して合格率も安定してきている。

(質疑応答)

Q. (池上) 合格率に関して、24年度、25年度と教員の努力が見える。東京で通っていた学校に比べたら、これほど充実して取り組んでいることに感動したが、総合演習は課外授業も含むものか。

A. (菊地) 体験治療実習は、臨床実習という実技の一環でおこなっている。

Q. (池上) 高総体の陸上競技で実習をやっており、学生が非常によく手伝ってくれているが、これはカリキュラムにあるのか。

A. (菊地) ボランティアで昼間部、夜間部ともいる。

Q. (池上) 感じが良く、教育が行き届いている。鍼灸師は、ひとり親方で籠ってやる傾向があるが、これからはオープンで医師と連携する鍼灸師を学術としても目指している。臨床は色んなものが混ざっている。手技やテーピングもあり、良い。中医学については、学校でやってほしいとは思う反面、国家試験の勉強に影響があるのではないか。

A. (菊地) 最近の国家試験は、中医学が中心になってきている傾向がある。

Q. (池上) そういうことであれば、カリキュラムに入っているのは良いことだ。色々と複雑になってきているが、学校がカバーできないところを鍼灸師会がカバーしたりして連携を深めてよりよいものにできたら良いと思っている。ところで、療養費の問題が増えてきているが、療養費の話などはしているのか。

A. (菊地) 社会はりきゅう学という科目で専門の方に来ていただき、授業をしている。今後もこのような形で取り組んでいきたい。

8. セラピスト&フィットネス科 教育計画(セラピスト&フィットネス科学科長 久保義哲)

本学科は、国家試験を目指す学科ではなく、それがひとつの特徴となっている。その代わりというわけではないが、各種民間団体資格、認定を全部で13個取得することができる。学科内容はセラピスト、つまり整体療法で手技を用いるための勉強を行う。また、フィットネス、つまり運動指導で、ジムのインストラクターをイメージしていただくとうよい。幼児体育、女性限定のフィットネスジム、健康運動実践、病院で高齢者向けの運動指導を行うなど活躍の場が広がっている。

2年間で定員は40名。新卒が8~9割。1年次に整体療法、運動指導の基本的な内容を必修で行っている。また、国語やパソコンなど社会に出て最低限必要なものもある。2年次は、就職先などの目標に合わせてセラピストとフィットネスに分かれて履

修をさせている。各種民間資格の認定校になっているので、卒業時には最低5つ以上の資格、認定を取れる。BRSOや健康運動実践指導者、JATI、エアロビクインストラクターなどが代表的。

リラクゼーション施設、整体院、フィットネスジム、幼児体育、病院など就職は多岐に渡る。県内外の比率では、県外での就職が多い。6～7割が県外で、東京を中心とした関東圏や福岡、佐賀など。東京オリンピックが決まってから、東京からの需要も高まってきている。

(質疑応答)

Q. (沖永) 運動指導者と整体を目指す比率はどれくらいか。また、男女比はどうか。

A. (久保) 整体を目指す学生が6～7割。残りが運動系。女性が多かったが、最近の男女比はほとんど変わらなくなっている。

9. トータル美容科 教育計画 (トータル美容科学科長 清木毅)

本年度4月から通信課程を開講している。美容室に勤めている方の従事者コースと、一般コースに分かれている。中学卒業以上で入学資格があり、高校生、主婦、社会人など幅が広い。現在スクーリング中だ。

さて、専門課程の話に入る。国家試験合格率は、筆記は100%を達成している。実技は25年度が90%、24年度が66.7%となっている。しかし、これまで不合格の学生で資格取得の意思がある者は、全員再受験で合格している。

授業は、理容美容教育センターが発行する美容師養成施設共通のテキストを使用して行っている。その他メイクアップ、エステ、ネイル、アロマ、色彩などの民間検定がある。合格率は、メイク90～100%、エステ過去3年間100%、ネイル90～100%、アロマ64～75%、色彩70～90%となっている。他にもリフレクソロジストは100%を達成している。

就職は、大半が長崎県内で、県外は例年3名程度。本学科はトータルで美容を学ぶので、美容師を目指す者もいれば、エステやネイルなどを目指す者もいる。現在の1年生の大半は美容師を目指している。昨年度は、半分程度だった。

学科の方針として、常に変化する美容科でいたい。今後、流行りそうなものを捉えて授業内容を変えている。

(質疑応答)

Q. (越本) 美容師国家試験の前に、美容室以外に就職が決まっている学生は、国家試験は受験しているのか。

A. (清木) 受験している。将来、美容師として働くこともあるかもしれないので、

取得するよう指導している。

- Q. (越本) 美容業界とは別の業界に就職する者もいるのか。
- A. (清木) 歯科医院に勤めた者が1名いる。筆記は合格したのだが、実技が不合格だった。
- Q. (越本) 美容部員やエステであれば、美容師でなくても優遇される場合があるので、受験させるようにしていた。まったく違う業界であれば苦労もあるだろうと思う。
- A. (清木) 国家資格だから是非取得するよう勧めている。どうしても美容師になりたいものは再受験しているが、他業界の場合は、受験しないことが多い。そうならないように全員合格を目指すことが課題だ。

10. 閉会の辞 (校長 廣瀬典治)

多くの貴重なご意見をいただき、今後の参考にしたい。

次回は平成26年9月20日(土)なので、よろしく願いしたい。

以上で、本委員会を閉会する。